

博士課程教育リーディングプログラム 平成24年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成23年度		
申請大学名	北海道大学	申請大学長名	佐伯 浩
申請類型	オンリーワン型	プログラム責任者名	山口 佳三
整理番号	F01	プログラムコーディネーター名	堀内 基広
プログラム名	One Healthに貢献する獣医科学グローバルリーダー育成プログラム		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

<プログラムの目的>

「One World - One Health (一つの世界、一つの健康)」という概念が示すように、地球上の生態系の保全は、ヒトおよび動物の健康の両者が相まって初めて達成できるものである。その実現と維持のためには、ヒトと動物の健康維持に向けた取り組みが必要である。感染症および化学物質による健康被害からヒトと動物の健康な生活環境を守るために、ヒトと動物の健康維持および生態系の保全を担う使命を持つ獣医師および獣医科学の寄与が世界的に求められている。そこで本プログラムでは、「One World - One Health」の実現に向けて、我が国のみならず世界の獣医科学の発展に寄与することのできる人材の育成に加え、感染症病原体とそれによって引き起こされる感染症、ならびにケミカルハザードの本質とそれがヒト、動物および生態系に与える影響に関して、グローバルな視野と俯瞰力を持って当該分野の教育研究の推進および対策にリーダーシップを発揮できる人材を育成することを目的とする。

<大学の改革構想>

本学では第二期中期目標として、「国際的通用性を持つ柔軟な大学院課程を構築する」こと、「教育の国際的通用性を向上させ、学生の国際的流動性を高める」ことを掲げ、平成22年度に①本学の教育研究組織間の連携を強化し、教育機能の向上を図ることを目的として高等教育推進機構を設置するとともに、②外国人留学生の受入支援、国際的な人材育成を目的として国際本部を設置した。さらに平成24年度から高等教育推進機構に大学院教育部を設置して、リーディングプログラムの推進と大学院共通教育の企画・調整を行っている。また、同じく第二期中期目標として、「世界水準の優れた研究者育成のための諸方策を次世代にわたる長期的な視点で継続的に実施する」ことを掲げ、平成21年度に博士課程学生等のキャリア形成の支援を目的として全国で初めて人材育成本部を設置し、若手博士研究者の社会進出を重点的に支援している。本リーディングプログラムでは、人材育成本部と連携して博士課程学生のキャリアパス支援の体制を一層強化していく。

本リーディングプログラムで実施する①外国人特別枠を設けて優秀な外国人留学生を獲得する入学者選抜制度、②英語により行う教育の強化、③海外のフィールドや機関での実践的な演習やインターンシップを取り入れた国際舞台における教育の単位化は、本学の中期目標を達成するための全学的なモデルケースとなる取組であり、国際本部とも連携しながら国際化を推進していく。さらに、本リーディングプログラムで構築する授業科目を本学の特徴の一つである大学院共通教育の充実のために活用し、医学、歯学、薬学、その他の生命科学系の研究科の授業科目を充実させることで、全学的な大学院教育の改革を推進する。

2. プログラムの進捗状況

- 平成24年度から、リーディングプログラムに則った年次進行型の大学院カリキュラムを開始し、プログラムに大学院学生を受け入れた。幅広い専門知識の修得を目的としてスクーリングを強化したカリキュラムであるため、大学院の修了要件は従来の30単位から38単位に変更した。本年度は、大学院1年次に開講する、獣医科学基礎科目群の各授業とアカデミックイングリッシュを実施した。新大学院カリキュラム開始後も、リーディングプログラム教務専門部会(以下LP教務専門部会)と研究科教務委員会大学院ワーキンググループ(WG)とが合同で、引き続き大学院カリキュラムの検討を続けた。
 - 本プログラムの特徴の一つである「人獣共通感染症対策専門特論」(平成25年度から開講予定、使用言語:英語)を、本年度、前倒しで試行した。同じく特徴の一つである「ケミカルハザード対策専門特論」(平成25年度から開講予定、使用言語:英語)の開講の準備を進めた。
 - 経済支援として奨励金制度およびTA/RA制度を開始し、平成24年度は9名に奨励金を支給し、延べ19名をTAもしくはRAとして雇用した。
 - 大学院学生科学研究費補助制度を開始し、平成24年度は19件の研究計画を採択し、1件当たり50~30万円の研究費を支給した。
 - 奨励金受給者、RA雇用者および科学研究費採択者による、研究成果報告会(英語)を開催し、研究報告書(英語)を作成した。
 - プログラムの周知と、優秀な学生の獲得を目的として、東京および札幌でプログラムの説明会を開催した。またザンビア大学、ソウル大学、コーネル大学等の海外の大学でも積極的にプログラムの説明を行った。
 - 多国籍かつ多様なバックグラウンドを有する学生が参集する修学環境を構築するため、平成25年度大学院入学者選抜に、外国人特別選抜と自学部外(日本人)特別選抜を導入した。通常の筆記・面接試験は実施せず、小論文、研究計画、キャリアプラン、指導予定教員の評価書などを基にした書類審査により、優秀な学生を選抜した。
 - 海外派遣支援制度により、海外疫学調査、国際学会発表、国際学会運営支援、あるいは海外研修の目的で、計18名の大学院学生を海外に派遣した。
 - 海外インターンシップの準備を進めるため、教員9名、および大学院学生10名を、世界保健機構(WHO)、国際獣疫事務局(OIE)などの国際行政機関、米国国立衛生研究所(NIH)、スイスウイルス免疫研究所(IVI)などの国際的な研究機関、およびテキサス大学ガルベスタトン校、コーネル大学等に派遣して、受け入れの可否、受け入れ先が求める人材・能力・スキル、実施内容、現地の生活など、インターンシップの実施について打ち合わせを進めた。また、インターンシップの試行として、大学院学生1名をメルボルン大学に派遣した。
 - 大学院教育の一環として、One Health、環境毒性、あるいは大学院教育をテーマとした国際シンポジウムを3回、感染症のリスク解析およびコントロール、臨床毒性学、あるいは放射線生物学に関する特別講義を4回、テクニカルセミナーを2回開催した。
 - 大学院学生が自主的にイニシアティブを持って企画運営する研究討論会「Progress」および講演会「Leading Seminar」を開始し、Progressを8回、Leading Seminarを4回開催した。
- 以上のように、平成24年度はリーディングプログラムによる大学院教育開始初年度であるが、プログラムの理念に則り活発な教育活動を進めた。